

病理学各論実習

科目責任者 石田和之
学年・学期 3学年・通年

I. 前 文

病理学各論は臨床医学のあらゆる分野の基本となる必須科目であり確実に習得しなくてはならない。そのためには病変部を肉眼的あるいは顕微鏡による観察によって実際に確かめる作業が必要不可欠であり、全ての実習に出席して課題を提出し、筆記試験に合格した場合にのみ単位を授与する。教員が提出された課題の内容を吟味し理解が不十分であると考えられる場合には、個別に呼び出して追加指導することもあり得る。

II. 担当教員

教 授 石 田 和 之 (病理診断学)
准 教 授 中 里 宜 正 (病理診断学)
講 師 金 子 有 子 (病理診断学)
助 教 松 田 葉 月 (病理診断学)
助 教 大和田 温 子 (病理診断学)
講 師 佐 藤 泰 樹 (埼玉医療センター・病理診断科)

教 授 矢 澤 卓 也 (病理学)

III. 一般学習目標

病理学は形態を通じて疾患を学ぶことが求められる。実習では、疾患の病態を理解するために、病変部を正常と比較しながら肉眼的ならびに組織学的に観察し、病変の重要なポイントを把握しまとめる力を養う。

IV. 学修の到達目標

- 1) 病変部を肉眼的・組織学的に観察し、正常との相違を理解することができる。
- 2) 病変部を観察し、基本的な病理学的所見を説明できる。
- 3) 疾患について、病理所見と臨床像を対比することができる(臨床病理相関)。
- 3) 各臓器疾患の診断に病理診断がどう活用されているか説明できる。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業(知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
消25	5	9	月	4	病理実習I肝疾患の病理	石 田 和 之	4
消27		10	火	3	病理実習II胆膵疾患の病理	石 田 和 之	4
循31		27	金	2	循環器病理実習1	金 子 有 子	4
消41		31	火	5	病理実習III食道	石 田 和 之	4
消42	6	6	月	4	病理実習IV胃・十二指腸	石 田 和 之	4

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
循40	6	13	月	1	循環器病理実習2	中里 宜正	4
循41		13	月	2	循環器病理実習3	金子 有子	4
消53		17	金	2	病理実習V非腫瘍性腸疾患	大和田 温子	4
消54		17	金	3	病理実習VI腫瘍性腸疾患	大和田 温子	4
脳・神 12	9	9	金	1	脳血管障害の病理実習	中里 宜正	4
内・代 16		15	木	1	内分泌病理の実習(1)	矢澤 卓也	4
内・代 17		15	木	2	内分泌病理の実習(2)	矢澤 卓也	4
脳・神 18		16	金	1	感染・変性疾患の神経病理実習	中里 宜正	4
脳・神 19		16	金	2	脳腫瘍の病理実習	中里 宜正	4
呼34	10	4	火	4	非腫瘍性肺疾患の病理実習	矢澤 卓也	4
呼40		12	水	5	肺腫瘍・胸膜縦隔疾患の病理実習	矢澤 卓也	4
呼41		12	水	6	肺腫瘍・胸膜縦隔疾患の病理実習	矢澤 卓也	4
血・造 5	11	17	木	1	血液・造血器疾患の病理実習1	矢澤 卓也	4
運11		25	金	3	病理実習(非腫瘍性疾患)	金子 有子	4
運12		25	金	4	病理実習(腫瘍性疾患)	金子 有子	4
産婦 21	12	8	木	4	病理実習1(卵巣・付属器の病理)	石田 和之	4
腎・泌 15		8	木	6	腎腫瘍・尿路疾患の病理実習	大和田 温子	4
腎・泌 18		9	金	3	男性生殖器疾患の病理実習	佐藤 泰樹	4
産婦 22		13	火	1	病理実習2(産科・胎盤の病理)	大和田 温子	4
産婦 23		13	火	2	病理実習3(子宮頸部・体部の病理)	大和田 温子	4
腎・泌 22		15	木	1	腎非腫瘍性疾患の病理実習	石田 和之	4
血・造 17	1	11	水	2	血液・造血器疾患の病理実習2	矢澤 卓也	4
血・造 21		13	金	2	血液・造血器疾患の病理実習3	矢澤 卓也	4

1) 実習室内における注意点:

- ①始業とともに実習が開始できるよう、予め準備する。
- ②観察中は私語を慎む。実習態度は評価に反映する。

2) バーチャルスライド(コンピュータ上)での観察の注意点:

- 始業とともに実習が開始できるよう着座し、予め準備する。

病理学各論実習の各コマは、科目構成上、各臓器疾患別科目に組み込まれている。詳細は、各臓器別疾患科目の講義

予定表を参照すること。

<実習コマの配置状況>

科目名	コマ数
消化器	6
循環器	3
呼吸器	3
脳・神経	3
内分泌・代謝	2
血液・造血器	3
産科婦人科学	3
腎・泌尿器	3
運動器	2
計	28

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下とおりの成績をもって評価する。（ ）内は評価の割合。

定期試験（80%）、課題の内容（10%）。

※単位取得にはすべての実習への出席が必須である。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

1. 臓器別各講義の参考書：各項参考

2. アトラス本：

正常画像と比べてわかる病理アトラス

アンダーソン病理学カラーアトラス（訳本）メディカルサイエンス・インターナショナル

カラーアトラス・基礎組織病理学（訳本）西村書店

組織病理アトラス 文光堂

病理組織の見方と鑑別診断 医歯薬出版

マクロ病理アトラス 医学書院

3. ネット

日本病理学会HP→病理コア画像

基本的な画像が載せてある

VIII. 質問への対応方法

実習中に随時、質問に答える。

実習時間外では、各研究室にて個別に応答できる。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

希望があれば，期末試験の結果を講評・解説する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学修：実習に対応する講義の資料を前もって学修すること。講義当日の最初にこの内容に関するテストを行い，結果は総合成績に反映させる。必要な所要時間はシラバス別冊に記載。

事後学修：教科書，配布資料を参考にして実習で学んだ疾患の臨床病理所見を整理する。必要な所要時間はシラバス別冊に記載。

XII. コアカリ記号・番号

D-7-4) - (2), D-7-4) - (3), D-7-4) - (5), D-7-4) - (8), D-5-1), D-6-4), D-2-1),
 D-2-4), E-5-3), D-12-3) - (2), D-12-4) - (2), D-12-4) - (3), D-12-4) - (4),
 D-12-4) - (10), D-8-4) - (9), D-9-4) - (3), D-8-4), D-1-1), D-1-4) - (4),
 D-12-4) - (7), E-4-3) - (2), D-4-4) - (3)